資料　1

施設一体型小中一貫校コンセプトについて（案）

R8.9　宇部市教育委員会

1　ウェルビーイングな学校をめざしたコンセプト案

「みんなで育つ９年間の学び舎」みらい学園（仮）
～異学年活動で個々を伸ばす小中一貫校～

○「みんな」

小学生（児童）、中学生（生徒）、教職員、保護者、地域

※一人ひとりが大切にされる共生の場

（例）・異学年集団による活動
・きょうだい学年などの交流活性化
・グローバルな多文化交流
・不登校、特別支援学級の児童生徒への厚いサポート
・ヤング自治会の発展・拡充

○「育つ」

児童生徒が「生きる力」を身に付ける
（様々な人々とのかかわりを通して、「主体性」や「思いやり」「社会性」を育む。）
教職員としての資質を高める
（異校種間で「指導力」を高め合い、地域交流を通して「人間性」を磨く。）
保護者や地域の大人が「生きがい」を見出す
（子育ての情報交換、生涯学習の場、学校を核とした地域づくり）

※質の高い学びの場

（例）・ＳＴＥＡＭ教育、習熟度別学習（自由進度学習）の充実
・ＩＣＴやＡＩを活用した最先端な教育
・地域と連携した探究学習
・放課後も学べる環境、大人の学び場

○「学び舎」

夢や目標を見つける場
仲間への思いや地域への愛着を育む場
誰もが居心地よく安らげる場
地域の人々の営みや温かな思い出を紡ぐ場

※笑顔あふれる集いの場

（例）・地域交流の拠点
（地域開放ライブラリー、健康遊具、こども食堂　など）

2　地域協議会ワークショップの意見より

◆藤山地区（令和８年７月５日）

「地域がつながる　楽しさあふれる学校」

・視点　①小中交流、幼から大学までの連携　　②地域連携　　③環境の整備
・キャッチフレーズ
１班「絆でつながる藤山」

２班「子供たちが行きたくなる学校、地域・大人も集まりたくなる学校」
３班「地域でめざす文武両道」
４班「メリハリのある学校」
５班「夢の国　藤山ランド」

◆鵜の島地区（令和８年７月１１日）

「みんなでつながり合うまち・学校」

・視点　①小中交流　　②地域連携　　③学校の安心・安全
・キャッチフレーズ
１班「年齢差のある多様な個性が安心安全な環境の中でのびのびと交流できる学校」
２班「スマイル」
３班「超　たのしく　かしこく　安全に」
４班「つなげよう　鵜ノ島最高」
５班「みんなで守る　ぼくらの安全」
６班「大」（大きな学校・大きな夢を象徴）

３　保護者アンケートより（令和８年８月実施）

◆保護者の期待

① 小中９年間を通した成長
・小学校から中学校への段差（中１ギャップ）の解消
・教職員間の情報共有
・継続的な学習・生活支援
・一貫した教育方針

② 異学年交流
・中学生への憧れ
・思いやりを育む
・縦割り班活動、小中合同行事
・小学生の中学校への不安軽減

③ 活気ある学校
・１学年のクラス数が増える
・友達が増える

④ 先進的な教育
・ICT、AI の効果的な活用
・探究学習
・地域を教室にする学び
・個別最適化
・インクルーシブ教育

⑤ 地域とのつながり（地域のシンボル）
・地域交流
・地域施設としての活用（地域住民も活用できる）
・防災拠点

◆保護者の不安

① 小学生と中学生の共存
・体格差や発達段階の差
・性的な影響
・いじめや SNS トラブル、暴力

② 通学距離と交通安全
・遠くなる（特に低学年が心配）
・通学のためのバスの利用を検討
・通学路の整備
・見守り

③ いじめ・人間関係
・９年間、人間関係が固定化する（リセットしにくい）
・上級生から下級生への影響

④ 施設規模
・運動場や体育館は足りるのか
・混雑しないか

【通学に対する基本的な考え方と現状】

■教育委員会の基本的な考え方

・国においては、小学校の通学距離は、おおむね４㎞以内、通学時間として１時間以内としており、本市においても現在の通学実態を踏まえて、これを望ましい学校配置の基準としています。
・小学生の通学は「安全の確保」を最優先としながら、基礎体力の向上にもつながることから「徒歩通学」を基本としています。

■宇部市内の小学校の通学距離と通学の状況

・宇部市内の小学校２４校のうち北部６校を除く１８校の最長通学距離の平均は約３㎞です。
・北部の小学校では、おおむね５㎞を超える地域で、路線バス等を利用して通学している児童がいます。
・現在の鵜ノ島小学校の最長通学距離は約 1.8㎞で、新設予定の小中一貫校までの最長通学距離は約2.8㎞です。

■教育委員会の通学支援の方向性

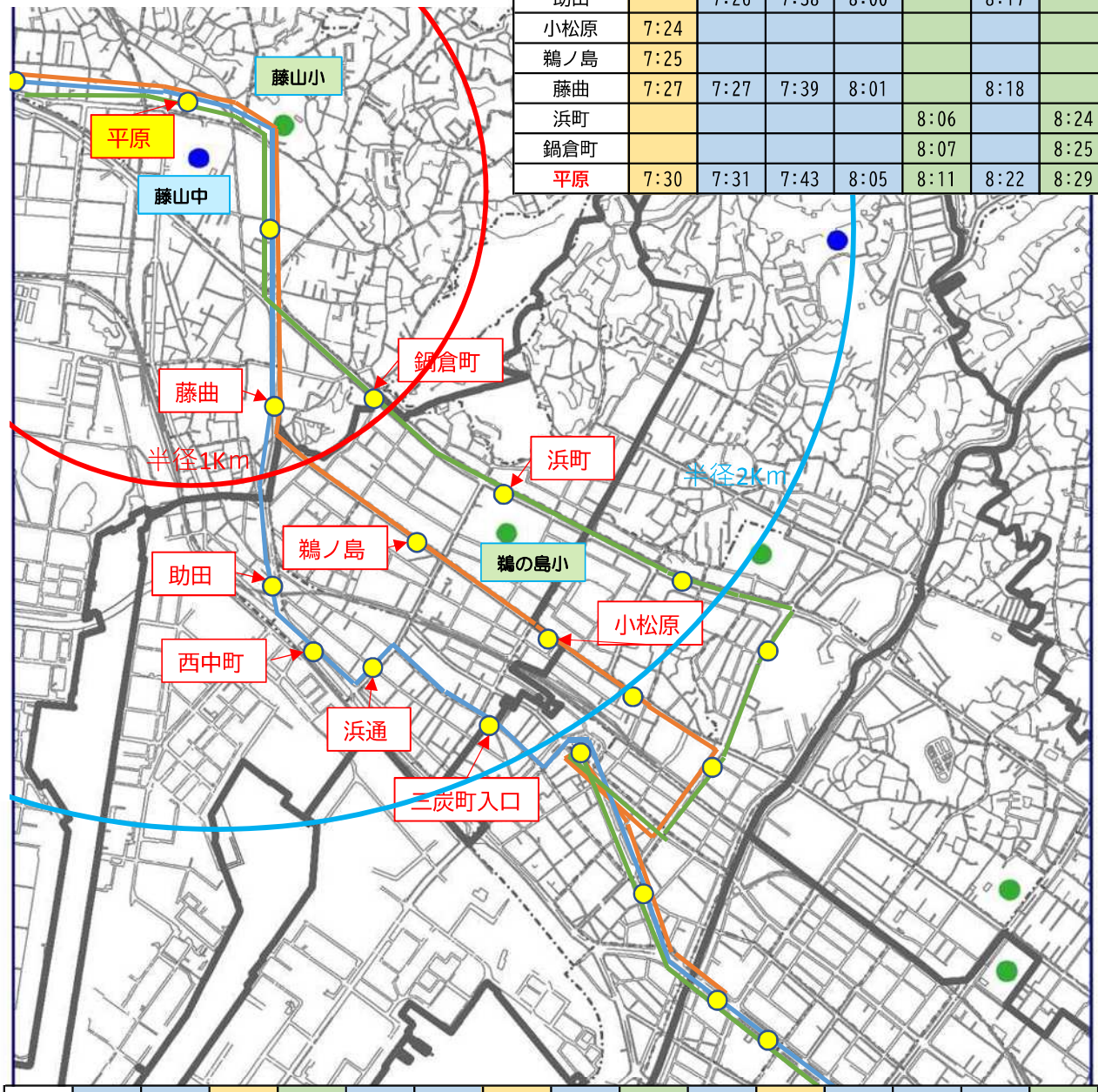
・本市では、今後計画的に学校の適正配置を進めていくことにより、通学距離は長くなることが想定されることから、令和７年７月から小中学生の路線バス(宇部市営バス)の運賃を無料化しています。
・通学支援としては路線バスの利用を基本として、ダイヤの調整やバス停の整備など関係機関との協議を進めていきます。
　また、地域と連携して、通学支援サポーターを配置するなど、バスの乗降時などの安全確保に努めます。

※裏面に路線バスの地図や時刻表がありますので、ご確認ください。

バス路線と時刻表

交通局（W1, W2, W3, W4, W5, W6, W7）
交通局（W8）
船鉄（船木～宇部駅～宇部市役所）

登校	船	W5	W3	W7	W8	W3	W8
三炭町入口		7:21	7:33	7:55		8:12	
浜通		7:22	7:34	7:56		8:13	
西中町		7:25	7:37	7:59		8:16	
助田		7:26	7:38	8:00		8:17	
小松原	7:24						
鵜ノ島	7:25						
藤曲	7:27	7:27	7:39	8:01		8:18	
浜町					8:06		8:24
鍋倉町					8:07		8:25
平原	7:30	7:31	7:43	8:05	8:11	8:22	8:29



下校	W3	W7	船	W8	W7	W5	船	W7	W8	W4	船	W7	W5	W3	W8
平原	13:57	14:34	14:38	14:49	15:04	15:07	15:28	15:34	15:49	15:57	16:38	16:48	16:57	17:27	17:53
鍋倉町				14:53					15:53						17:58
浜町				14:54					15:54						17:59
藤曲	14:00	14:37	14:41		15:07	15:10	15:31	15:37		16:00	16:41	16:51	17:00	17:31	
鵜ノ島			14:43				15:33				16:43				
小松原			14:44				15:34				16:44				
助田	14:01	14:38			15:08	15:11		15:38		16:01		16:52	17:01	17:32	
西中町	14:02	14:39			15:09	15:12		15:39		16:02		16:53	17:02	17:33	
浜通	14:05	14:42			15:12	15:15		15:42		16:05		16:56	17:05	17:36	
三炭町入口	14:06	14:43			15:13	15:16		15:43		16:06		16:57	17:06	17:37	

令和８年(2026 年)　月　日

鵜の島地区の未就学児の保護者　様

宇部市教育委員会
教育長　野　口　政　吾

通学支援に係わるアンケート調査ご協力のお願い

藤山中学校区においては、令和１５年度を目途に鵜ノ島小・藤山小・藤山中の２小１中の施設一体型小中一貫校を現在の藤山中学校の敷地内に新設することとしています。そのため、現在、鵜ノ島小学校区にお住いのお子様は通学距離が長くなるため、教育委員会では、通学支援方法について、検討をしているところです。

その検討の参考とさせていただくため、開校予定時に新しい学校に通学されるお子様のご家庭を対象にアンケートを実施させていただきます。

アンケートにお答えいただく前に、別添の「通学に対する基本的な考え方と現状」をご一読いただき、ご回答いただきますよう、よろしくお願いします。

１　実施期間　通知文が到達した日～　月　　日（　）
２　実施方法　LOGO フォームによるアンケート
３　対象者　　鵜の島地区にお住まいの**未就学児**の保護者
　　（R10～R14 年度小学校入学の未就学児）
４　アンケート回答ページ
　下の QR コードを読み取って、ご回答ください。

QR コード

５　その他　設問は７問です。ご協力をよろしくお願いします。

連　絡　先
宇部市教育委員会　教育総務課
℡:34-8604
mail:ed-soumu@city.ube.yamaguchi.jp

通学支援に係わるアンケート調査

① 令和１５年４月のお子様の学年(開校時)の学年をお答えください。

□２年生　□３年生　□４年生　□５年生　□６年生

【参考】
２年生（令和７年４月２日から令和８年４月１日生まれまで）
３年生（令和６年４月２日から令和７年４月１日生まれまで）
４年生（令和５年４月２日から令和６年４月１日生まれまで）
５年生（令和４年４月２日から令和５年４月１日生まれまで）
６年生（令和３年４月２日から令和４年４月１日生まれまで）
※１年生は、これから生まれる子どもさんも含まれるため、今回のアンケートから除外しています。

② お住まいの鵜の島地区の自治会区をお答えください。不明な場合は、封筒の宛名の下に記載してありますのでご確認ください。

□１４-１区　□１４-２区　□５７-１区　□５７-1-1区　□５７-２区
□５７-３区　□５７-４区　□４１区～４６区、４６-1区、４６-２区
□４７区～５０区　□５１区、５３区
□５２－１区、５２－２区、５４区、５６区
□５８区、５８-１区　□５９区、５９-１区
□６０区、６０-１区、６１区、６１-１区、６２区
□６３区　□６４区

③ 新たに開校する学校への通学はどのような方法を希望されますか。（スクールバスを除く場合）

□徒歩
□路線バス
□その他(例　保護者送迎　など)

【参考】
路線バス(宇部市営バス)は、令和５年７月から小中学生の運賃は無料になっています。通学で利用する際に通学距離による利用制限はありません。鵜の島地区を通るルートの路線バスは船鉄を含めて３路線あり、登下校に適する便があり、今後さらにダイヤの調整等も行っていく予定です。
(別添の地図、時刻表参照)

④（上記の回答に係わらず全員お答えください。）
路線バスの利用を検討される際、懸念されることはありますか。
（複数回答可）

□乗車場所のバス停で所定のバスに乗れるか。
□降車場所で間違えずに降りることができるか。
□他の乗客とのトラブルや有事の際の対応への不安。
□路線バスの時刻に合わせた、学校での待機場所の確保。
□その他(自由記載)

⑤ スクールバスの導入を検討する場合、どのような児童を通学支援の対象とすべきだと考えますか。

□学校からの通学距離に関係なく、希望する児童全員を対象とすべき
□学校からの通学距離に関係なく、1,２年生のみ対象とすべき
□学校からの通学距離で２．０㎞以上の全児童を対象とすべき
□学校からの通学距離に関係なく、スクールバスの導入は必要ない。
□その他(自由記載)

⑥ スクールバスを導入するとした場合、開校した際の主な通学方法についてどのように考えますか。

□徒歩
□路線バス
□スクールバス
□その他(自由記載)

【参考】
スクールバスを導入した場合、乗降場所は現在の鵜ノ島小学校または指定のバス停とし、運行は１便を想定しています。なお、補助員などの配置は行われない見込みです。

⑦ 通学についてのご意見がありましたら、ご記入ください。

令和８年(2026 年)　月　日

保護者　様

宇部市教育委員会
教育長　野　口　政　吾

通学支援等に係わるアンケート調査ご協力のお願い

藤山中学校区においては、令和１５年度を目途に鵜ノ島小・藤山小・藤山中の２小１中の施設一体型小中一貫校を現在の藤山中学校の敷地内に新設することとしています。そのため、現在、鵜ノ島小学校区にお住いのお子様は通学距離が長くなるため、教育委員会では、通学支援方法について、検討をしているところです。

その参考にさせていただくため、開校時に新しい学校に通学予定のご家庭及び現在鵜ノ島小学校に在学している保護者の皆様を対象に、アンケートを実施しますのでご協力をお願いします。

なお、アンケートにお答えいただく前に、別添の「通学に対する基本的な考え方と現状」をご一読いただき、ご回答いただきますよう、よろしくお願いします。

１　実施期限　　月　　日（　）まで
２　実施方法　LOGO フォームによるアンケート
３　その他　設問は８問です。

※下記の URL からご回答ください。
URL：・・・・・・・・・・・・・・・・・

連 絡 先
宇部市教育委員会　教育総務課
℡:34-8604
mail:ed-soumu@city.ube.yamaguchi.jp

通学支援に係わるアンケート調査

① お子様の学年の学年をお答えください。

□１年生　□２年生　□３年生　□４年生　□５年生　□６年生

② お住まいの鵜の島地区の自治会区をお答えください。

□１４-１区　□１４-２区　□５７-１区　□５７-1-1区　□５７-２区
□５７-３区　□５７-４区　□４１区～４６区、４６-1区、４６-２区
□４７区～５０区　□５１区、５３区
□５２－１区、５２－２区、５４区、５６区
□５８区、５８-１区　□５９区、５９-１区
□６０区、６０-１区、６１区、６１-１区、６２区
□６３区　□６４区

③ お子様が小学生として新しく開校する学校へ通うとしたら、どのような方法を希望されますか。（スクールバスを除く場合）

□徒歩
□路線バス
□その他(例　保護者送迎　など)

【参考】
路線バス(宇部市営バス)は、令和５年７月から小中学生の運賃は無料になっています。通学で利用する際に通学距離による利用制限はありません。鵜の島地区を通るルートの路線バスは船鉄を含めて３路線あり、登下校に適する便があり、今後さらにダイヤの調整等も行っていく予定です。
(別添の地図、時刻表参照)

④（上記の回答に係わらず全員お答えください。）
路線バスの利用を検討される際、懸念されることはありますか。
（複数回答可）

□乗車場所のバス停で所定のバスに乗れるか。
□降車場所で間違えずに降りることができるか。
□他の乗客とのトラブルや有事の際の対応への不安。
□路線バスの時刻に合わせた、学校での待機場所の確保。
□その他(自由記載)

⑤ スクールバスの導入を検討する場合、どのような児童を通学支援の対象とすべきだと考えますか。

□学校からの通学距離に関係なく、希望する児童全員を対象とすべき
□学校からの通学距離に関係なく、1,２年生のみ対象とすべき
□学校からの通学距離で２．０㎞以上の全児童を対象とすべき
□学校からの通学距離に関係なく、スクールバスの導入は必要ない。
□その他(自由記載)

⑥ スクールバスを導入した場合に、お子様が小学生として新しく開校する学校へ通うとしたら、通学方法についてどのようにお考えですか。

□徒歩
□路線バス
□スクールバス
□その他(自由記載)

【参考】
スクールバスを導入した場合、乗降場所は現在の鵜ノ島小学校または指定のバス停とし、運行は１便を想定しています。なお、補助員などの配置は行われない見込みです。

⑦ 現在の学童保育クラブは、鵜の島地区と藤山地区ともに、それぞれの学校の敷地内で実施していますが、新しい学校が開校した場合、どこで実施することが望ましいと思われますか。

□鵜の島地区の子どもは現在の場所
□鵜の島地区の子どもも、藤山地区の子どもと同じ場所
　（現藤山小もしくは藤山中の敷地）
□その他（自由記載）

⑧ 通学等についてのご意見がありましたら、ご記入ください。

新たな学校(施設一体型小中一貫校)に関するアンケート調査

いつも大変お世話になります。宇部市教育委員会学校教育課です。

藤山中学校区では、７年後の２０３３年に、鵜ノ島小、藤山小、藤山中の３つの学校が一つになった、新しい「施設一体型小中一貫校」が誕生する予定です。
これは、小学生と中学生が同じ敷地内で一緒に学ぶ、新しい形の学校です。

この新しい学校を、子どもたちが「毎日通うのが楽しみ！」と思えるような、地域に愛される魅力的な場所にしていくため、下記の通りアンケート調査を実施します。
ぜひ、皆さんのアイデアやご意見をお聞かせください。

記

１　実施期間　令和８年８月２０日（木）～８月２８日（金）
２　実施方法　Ｗｅｂによるアンケート
３　対象者　　鵜ノ島小、藤山小、藤山中学校児童生徒の保護者
４　アンケート回答ページ
　https://・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
５　その他　設問は３問です。ご協力をよろしくお願いします。

学校教育課　℡：（０８３６）３４－８６１１
mail： school@city.ube.yamaguchi.jp

新たな学校(施設一体型小中一貫校)に関するアンケート調査

問１　あなたが居住する地区（校区）をお答えください。

１　　鵜の島　　２　藤山

問２　あなたが、新たに建設される施設一体型小中一貫校に期待すること、大切にしたいことをご記入ください。

問３　あなたが、新たに建設される施設一体型小中一貫校に対して不安に感じていることをご記入ください。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

令和８年８月発行

宇部市立小中学校適正規模・適正配置

藤山中学校区地域協議会だより

第６号

令和８年度の第１回藤山中学校地域協議会を７月２７日（月）18時30分から鵜の島ふれあいセンターで行いましたので、会議の概要をお知らせします。

第１回　藤山中学校区地域協議会の概要

未来の学校づくり検討会について

７月５日と11日に、藤山地区と鵜の島地区で「未来の学校づくり検討会」が開催され、藤山中学校の敷地に開校予定の小中一貫校が、地域の皆様から愛される魅力ある場にするための、さまざまなアイデアが出されました。

協議会では、検討会で寄せられた意見を確認しながら、各委員が重要と考えるキーワードや意見を出し合いました。

《７月５日藤山ふれあいセンターで開催の検討会の様子》



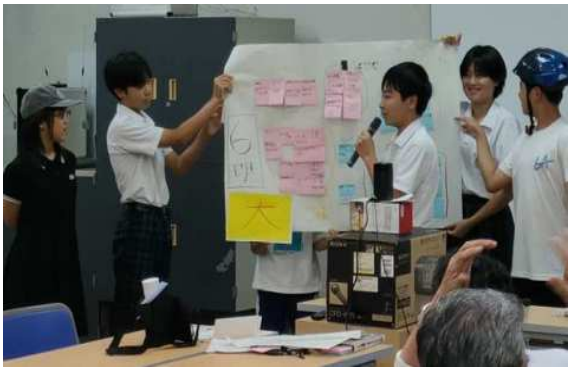




《７月11日鵜の島ふれあいセンターで開催の検討会の様子》







■　検討会で寄せられた意見を踏まえた各委員の主な意見

- 共通して大事だと考えられているのは「交流」。学年を超えた児童生徒の交流、地域の人たちや教職員との交流など。学校の中に地域の方の職員室のようなものがあると良いという意見も印象的で、多目的に使用できる施設設計が必要ではないかと感じた。
- 「そこで共に学べる」ことがキーワードとして挙がっていた。世代を問わず学べる・学び直しができる場であることが重要。みんなの夢が集まる学校になると良い。
- 両地区に共通していたのは「一緒にやっていこう」という意識があること。一方で、小学校がなくなることで鵜の島の不安が強まるため、その解消策を早めに詰める必要があると感じた。
- これまでにない「つながりづくり」が重要だと感じた。小学校の学習でつまずいた中学生には、小学校教員による支援など学び直しの仕組みがあると良い。
- 学校名を変える提案や、鵜の島エリアに複数の送迎車を出してほしいという意見が出たことも印象に残った。
- 資源が豊富な土地柄を活かした、自然体験学習などの学びを大切に続けてほしい。同時に、ＡＩを上手に活用できる教育もしてほしい。
- 大きく３つのキーワードが気になった。１つ目は、「 安心・安全の確保 」。グラウンドの使い方や整備、通学路の安全対策の強化など。２つ目は「経験の充実」。縦割り活動や地域との交流も大切。３点目は「施設整備」。体育館の冷暖房、屋内プール、人工芝グラウンドなどの整備が望ましいという意見が多くあった。
- 教育方針は、あえて学校ではなく、『みんながつながり、学び合うまち』とするのが良いのでは。「みんな」は小中学生だけでなく教職員や地域住民も含み、「学校」ではなく「まち」とすることで、地域の参画を促して互いに学び合うことにつながり、面白いのではないか。
- 何より大事なのは教職員のウェルビーイング。先生たちが元気で働きやすい環境でなければ質の高い教育は実現しない。今後予定している教員ワークショップで現場の意見を丁寧に取り入れ、また「先生が元気であること」を基本方針のキーワードとして明記してほしい。

主なキーワードは、
「交流」、「つながり」
「安心・安全」、「学び直し」
「施設設備の充実」
「AI・ＩＣＴ教育の充実」
「教員のウェルビーイング」
かな？





９月末開催予定の次回協議会では、未来の学校づくり検討会や協議会、また保護者アンケートでの意見などを参考に教育委員会が作成する、新しい学校の「基本コンセプト(教育方針)案」をもとに協議を行います。

【発行元】宇部市教育委員会事務局　教育総務課
☎34-8604　mail：ed-soumu@city.ube.yamaguchi.jp
※　計画や協議内容の詳細は市ウエブサイトからご覧いただけます。
ウエブ番号　1025530